

# 会長就任にあたって

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 会長  
**齋藤 保** (株式会社 IHI 代表取締役会長)



2018年6月14日に開催された本会の総会及び理事会において、近藤史朗前会長の後を受けて6代目会長に就任致しました。よろしくお申し上げます。

近藤前会長は、本誌301号(2018.5)の巻頭言において「日々の創意工夫の積み重ねが、時間の経過とともに大きな革新になるので、日々の創意工夫にこそVEを活用すべきだ」、さらに、本誌302号(2018.8)では知的労働者の生産性に言及され、昨今の「労働時間の議論は、20世紀の工場労働者の管理手法を論じるのと何ら変わらない」とし、「日本に上陸してから半世紀が経過した今、VEは新しいステージに進む必要がある」と述べておられます。

現在の日本の産業界を見てみますと、高度成長を担ってきた団塊の世代がものづくりの現場から去りつつあり、技能の伝承が十分でないなど、技術力の低下が起きている。また、日本のものづくりを支えている中小企業の現場では、経営者が60歳以上で後継者が決まっていなかったり、日本企業の3分の1にあたる127万社に達すると言われております。技術的にも、産業的にも、日本の競争力の低下に拍車がかかる懸念があります。

高齢化社会の到来、地球規模の気象変動、国際社会の緊張化、急激なデジタル化、イノベーションの波など、私たちは今までに遭遇したことのない社会の変革期に在ると言っても過言ではないでしょう。それらを解決するために、超スマート社会を実現していく「Society 5.0」の実現や、持続可能な開発目標「Sustainable Development Goals (SDGs)」の達成に向けて活動を加速していく必要があります。

私は、これらの社会課題を解決するために、VEの考え方が大いに役立つと考えています。技能の伝承の問題については、手段ではなく、その機能

に立ち返り、本来の果たすべき役割を明確にすることに着目するのです。そして、それを達成する手段は、デジタル化やイノベーションによる新しい手法を駆使して実現させるのです。そのことにより、より価値を高めた新しい製品が生まれてくることでしょう。

また、「何のために」を繰り返すことで、より高い次元にある社会(顧客)の潜在的な要望や課題を掘り起こし、そこに新しいビジネスモデルを生み出すことも可能になるのではないのでしょうか。そのためには、営業職やサービス業界にVEの考え方を広め、個々の製品やサービスではなく、自社や協力会社の強みを組み合わせ、顧客の最優先課題を解決するソリューション、すなわち顧客価値を提案するために、VEの使用者優先、機能本位の考え方が大いに活用できると考えています。さらに、多くの社会の問題を解決するためには、産官学の連携も大きな課題となります。VEの教育界への適用も進めていかなければならないでしょう。VEは、社会に新たな価値を生み出し、課題を解決するために、新しいステージに進む必要があるのです。このような思いから、今年のVE全国大会は「VEの新しいカタチ」をメインコンセプトにしました。

弊社も、創業より160年を超える古い企業ですが、新しく生まれ変わるべく、「モノ売りからコト売りへ」をスローガンに変革を進めています。その中で、VEの考え方を理解し、継続的に実践できる体制をグループ全体で構築・強化しています。

何も変えないことは現状維持ではなく、緩やかに衰退していくことです。時代の急速な変化に対応すべく、新たなステージにおけるVEのあり方について、皆様とともに考え、スピード感を持って実践していきたいと思っております。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。